

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
第91回放送の概要 (2015年1月24日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
たろう (佃 由晃)
なか (中嶋邦弘)
かりん (妹尾優香)
あな (岸本幸恵)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) 川柳は、庶民の生活の中から生まれた、日本独自の文芸です。我々愛好会の同人は、この世界の森羅万象を面白おかしく、物事の真理をずばりと突いたり、時には社会の矛盾を辛辣に風刺したり、人情の機微などを五・七・五のわすか十七音字の世界で遊んでいます。学歴、職種、経歴を超越して過去のことは問わず、今の自分を大事にして川柳を作っている仲間の会です。本日はゆうかり放送委員会のサポーターで、川柳を愛し、酒を愛するドリンクー (drinker) 川柳愛好会様のご協力をいただきました。

1. ゲストコーナ (1): 兵庫高校 未来創造コース 橋口丈人さん、坂部和希さん、川口拓実さん、

窪田 勉先生

橋口丈人さんは山岳部に所属し、高取山でトレーニング、休日は菊水山、六甲縦走もしている。坂部和希さんは弦楽部でコントラバスを担当している。川口拓実さんは陸上部で幅跳びなどの跳躍をしている。窪田先生 (86 陽会) は、未来創造コース 1 期生の担任で、現役時代はラグビー部でした。

1. 未来創造コースの取り組み

未来創造コースは普通科に属しているが、普通科の教科の他に創造という教科があり、文系と理系の両方の活動を 1 年生で行っている。文系の活動としては「長田の未来を創造しよう」というテーマで、町おこしの活動を班に分かれて課題を設定し、行っている。理系は神戸大学と連携し、大学院生に研究テーマを提示してもらい、テーマを設定後大学院に行き大学院生と一緒に実験している。

長田の未来を創造しようという活動の取り組みは、まず長田区役所のまちづくり課長さんから、長田の歴史、課題を聞いた後、班別に分かれ取り組み課題を設定している。説明を受けた課題としては、少子高齢化、空き家が多い、外国人が多いことによる多文化共生、商店街が昔に比べ賑わいが減ったことなどである。

橋口さんの 8 班の取り組みは、「Let's eat art」のテーマで、人間の大切な衣食住のうち、誰もが食べて楽しくなることから、「NPO 法人芸法」とのつながりを使い、空き家対策の一つとして食と芸術で地域を結ぶ内容に取り組んだ。芸法は、空き家が多い駒林地区で行なわれている、空き家であった角野邸を再生しアトリエに改装し、若者支援の拠点にする活動をしている。角野邸の隣の小澤邸も、日本建築学会のワークショップとして 1 年かけて再生することが決まったので、兵庫高校生も参加させて

もらい、近隣の工業高校生と一緒に空き家再生の活動を行った。具体的な作業としては、漆喰塗り及び敷居、ガラス戸、床などの建具を磨いたりし、びっくりするほどきれいになった。改装後は芸法や「エコールKOBÉ」の生徒が作ったアート作品を飾り、「エコールKOBÉ」の生徒の活動の場としてのアトリエが出来あがった。「エコールKOBÉ」は障害者が特別支援学校卒業後の自立支援を行っているNPO法人である。



このような状況の中で角野邸で「Let's eat art」を楽しんでもらおうと考え、白玉をウサギや葉っぱの形にしたり、えびせんの上にソースで鉄人を描いたり、金太郎飴のような柄を入れた巻きずしを作り、地域の人と一緒に楽しんだ。駒林地区は空き家が多く、街ですれ違う人も少なく繋がりがあまりないと思っていたが、このような活動を地域の人とすることで地域の人々の暖かさを感じた。この活動は今後継続したいと考えている。

坂部さんの班は「アジアごちゃまぜ丼」というテーマを設定した。長田はぼっかけ、そばめしが有名で、そのような物を使って町おこしをしたいと思った。まず新長田に出かけぼっかけ、そばめしを食べてみたところとてもおいしかった。夏場に月1回丸五市場で「丸五アジアナイト屋台」というイベントがあることを知り出かけたところ、狭い場所に人が一杯で兵庫高校出身者も多く、話を聞くことが出来た。普段は閉まっている店舗も多いが信じ難いほど賑わっていた。とても盛り上がっていたので自分達も参加したいと思った。昨年も先輩の班がアボガドにチーズをかけた「あぼっかけ」を販売した。



ごちゃまぜ丼は、班員の話し合いで出来たもので、学校で試行錯誤してきた。メニューは辛いものを中心に、豚、キムチ、カレー粉、マーボ豆腐のもとなどで、こっぴんカフェ内に場所を借りて屋台にし、味付けの指導をもらい、ゴマ油を追加した。辛い目の味付けにしたのは酒の友として考えたからである。事前に神戸新聞などで報道されていたので、見たよと言って食べに来てもらった。味が濃いか量が少ないなどの意見はあった。準備に要した費用の回収が必要であり、お金のことで苦労したが、47食完売し成功した。ぼっかけ丼は高校生鉄人化祭りでも販売したいと考えている。

2. ミュージック：満月の夕（ソウル・フラワー・モノノケ・サミット）

阪神・淡路大震災の直後の1995年2月に、震災被災者を励ますため、ソウル・フラワー・モノノケ・サミットによる「出前慰問ライブ」が開始された。被災地特有の理由から、アコースティックな楽器を用いることにし、エレキ・ギターを沖縄の三線に、ドラムをチンドン太鼓やチャンゴ（朝鮮太鼓）に持ち替え、震災初期はマイクの代わりにメガホンや拡声器を使い、避難所や仮設住宅などで演奏活動を行った。年配の方のために、戦前戦後の流行り唄や演歌、日本民謡・沖縄民謡・朝鮮民謡・アイヌ民謡などをレパートリーにし、チンドン・アレン



ジで演奏し、彼らを力付けた。ボーカルの中川敬さんが、震災の一ヶ月後に南駒栄公園で、家族を亡くしても人のために一生懸命働いている姿を見て、「満月の夕」を書き下ろした。被災地の惨状や、復興への厳しい現実、そして、それらに向き合う人々のひたむきな姿が歌い込まれている。

3. ゲストコーナ(2)

7班の川口さんは、「発信！商店街の魅力」をテーマに設定し、商店街の活性化に取り組んだ。アスタくにつか3番館のマップを作ったり、縁日を手伝った。マップは1軒1軒聞き取りをし、店のお勧め商品を、高校生の目線で紹介するもの。毎年10月26日に行われるハロウィン縁日に参加した。3番館の空き店舗2か所のうち1か所を借り、ハロウィンシュートというボール入れゲームを出店した。店舗運営のため、宣伝(呼び込み)、受付などで多くの人手がいるため、班員5人の他、他班の協力を得て14人で対応した。

縁日への参加は、3番館の西村川魚店の西村さんの協力で行うことが出来た。西村さんは商店街の活性化のためにさまざまなイベントを行っている。子どもさんを相手にするイベントに高校生が参加することが出来てよかったと思っている。またこの地域には、アスタこども市場という小学生が商売を体験するプログラムがあり、1コマ30分で6コマ働くが、1コマごとに地域で当日のみ使えるお金がもらえる。7班の生徒はこども市場の運営にボランティアで携わった。このような活動は土、日などの授業時間外で行っている。自宅が一番遠い橋口さんは、神鉄道場駅から通学時間は1時間30分かかるので、6時半ごろ自宅を出て8時には学校に着いている。学校に来て創造コースの活動がしたいのでこのような生活は苦ではない。



2. 福井大学探求コラボレーションに参加

坂部さんは、福井大学探求コラボレーションに参加した。全国から同じような活動をしている中学、高校、大学、大学院、先生、留学生が集まり、ラウンドテーブルで議論する。高校卒業後、大学に入るまでの1年間の猶予期間(ギャップイヤー)がある場合、あなたは何をしますかというテーマが与えられ、皆で議論するというもの。坂部さんのグループには、高校生、企業人、高校の先生、留学生が参加し、坂部さんは大学卒業後の1年間をギャップイヤーとして「無駄な1年」というテーマで発表した。夢は公務員で大学は法学部に入り、公務員試験などに必要な勉強をするが、公務員になることとは関係ないバイト、ボランティア活動を行い、沢山のひととふれあうという主旨の発表をした。公務員を希望しているのは、中学時代から生きる意味、働く意味を考え、働く理由がわからなくなった時、公務員は奉仕者として役割を与えられているので、働く意味を感じやすいと考えた。



他の発表では社長と仲良くなるとか、まちでイベントをするなど学校の授業の延長と思われるもので、自分の仕事に直接ながるものであったが、坂部さんの発表は逆の発想のテーマで、そこが面白いと言われた。発表に参加出来たことで色々な立場の人の意見を聞くことが出来、自分では思いつかない意見を聞くことが出来、自分が成長できたと思った。

福井大学のプログラムに参加したのは、スーパーグローバルハイスクールアソシエイトに文部科学省から指定されているのでその繋がりからである。

3. 第5回高校生鉄人化まつり

実行委員長は橋口さんで、3月28日(土)に鉄人広場で開催予定。将来の町の担い手である高校生が中心になり、イベントを立ち上げ長田の町を盛り上げる事が目標。テーマは「青春のわ」で、輪っかの「わ」、和むの「わ」、驚きの「わ」などいろんな言葉が入る。まつりには長田区内の高校が参加し、兵庫高校生が中心となり鉄人会議を開催し、内容を決めていくことになる。検討中であるが、高校生が盛り上がり楽しむため、ドーナツの早食い、青春について思い切り叫ぶ「叫べ高校生」などを企画中である。また文化部の発表の機会を設けるといことで、吹奏楽、ダンス、弦楽、書道アートなどを計画している。実行委員は兵庫、育英、神戸野田高校である。一般の方にも楽しんでもらえる内容になっている。

4. 地域瓦版

1月25日(日)、中華同文学校で「つどい、阪神淡路震災20年・多文化共生をめざして～」が10時～16時まで開催されます。

2月11日(水)、11時～17時まで、神戸ビエンナーレ2015プレイベント、震災20年新長田アートプロジェクトがアスカくにつか1番館、大正筋商店街の空き店舗5区画で開催されます。震災で特に大きな被害を受け復興を遂げた新長田に、アートで更に活性化を図ろうと商店街空き店舗を活用したアート作品展を実施しています。

4月7日(火)まで、神戸ファッション美術館で衣服に出来る事、震災から20年と題する特集展示が開催されています。

アートでつながろう~芸術祭のきずな~

【新長田アートプロジェクト】
阪神淡路大震災から20年を迎える「新長田」で、兵庫県内の芸術家が活躍するアーティストたちによる空き店舗を展示スペースとして活用したアートプロジェクト

KOBE Biennale 2015 8.19-11.23 神戸の文化芸術 神戸ビエンナーレ2015

5. 来月のゲスト

大見昭子さんにお越し頂き、戦後以降の女性の生き方についてお話いただきます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>